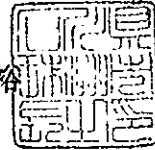


20建第 296 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

珠洲市長 泉谷 満寿裕



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

このことについて、平成20年9月19日付け国道企第37号で照会のありました件につき、別紙のとおり提出します。

珠洲市は、能登半島の最先端に位置し三方が海に囲まれています。唯一、県央への交通手段は能登有料道路を利用しても 2 時間余りかかり、いまだ陸の孤島と称されています。今後、有料道路の高規格化と珠洲・穴水間の整備促進が強く望まれるところであります。

本市は約 60 キロの海岸線を有しております。国道 249 号線や主要地方道大谷・狼煙・飯田線など基幹道路がありながらも海岸線の入り組んだ地形や急峻な山間部に阻まれ、大型車両がすれ違い出来ない路線など数多くあります。観光シーズン等になりますと大変危険な状態に遭遇します。平成 19 年に国土交通省に登録頂いた奥能登風景海道（シーニックバイウェイ）であります。このような道路状況にあるため観光バスには敬遠されている状態であり、ハード面での道路整備が特に望まれるところであります。

国道 249 号線では、山間部のトンネル整備が終了し、大谷道路として海岸取り付け部の改良整備が着々と進行しているところであります。今後、安全・安心な国道として利便性が向上し、経済産業及び観光の重要なルートとして大いに活用できると期待されます。

本市では、「産業の振興」「観光の振興」「定住の促進」を重点プロジェクトと位置づけ戦略的な活性化策を展開しております。しかし将来的にこれら施策を講じて、道路問題が解決しない限りにおいては容易に達成できない事ばかりであろうと思われます。現在、公共交通の見直し作業を行っておりますが、未だ山間部においては路線バスの空白地帯があります。これら生活道路の整備促進が急務だと思われますが、地域が目指す道路整備として、能登半島地震に見られたようなライフラインが分断されるようなことが起こらない、災害に強い道路づくりも求められます。

特に、珠洲市のような過疎地域においては生活道路の維持管理や除雪でさえ行えない状態であります。交付税措置は当然であります。路線延長に応じた特別な助成制度を創設されるよう強く要望いたします。

② - 1 地域の現状と抱える課題

○ 現状について

珠洲市は人口が約 18,000 人で 65 歳を超える高齢化率では 37% となり、益々過疎化と高齢化率が進行している状況であります。特に生活圏の移動手段としての公共交通の利用者減少など、社会形態を維持すること自体も大変困難な状況にあります。

本市の道路整備状況は、周辺自治体よりかなり整備されておりますが、現在その維持管理に大変な費用がかかっております。舗装の修繕は勿論であります、沿道の草刈りが最大のネックであります。また、冬季間は除雪機械を所有する業者が少ないため、除雪そのものが危うくなっています。このままでは、年間を通じて生活道路の確保は年々難しくなってきました。

○ 課題について

山間部にあるハーブ園への道路は、道路両側から木々の枝が張り出し、大型車両の通行に支障を来たすようになってきました。また、平野部での道路でも草刈が問題になっております。今までは地域で担当してきたものが、高齢化になり農地の管理はもとより道路にまで手が届かなくなりました。

また、昨年からは除雪機械の維持管理について、行政が責任を持つ体制や費用面での助成を行う事になりました。しかしその後の、除雪機械の減少には歯止めがかかりません。

戦後、道路は地点間の連絡ネットワークを拡大する方向に成長してきました。しかし現在、自動車社会が成熟する中で「そこに住む」人々が主役となる、生活観あふれる楽しい道路づくりが求められるようになってきました。道路法においても、多様なニーズに応じた取り組みが紹介されています。中でも、過疎化・高齢化社会にも適用した道路づくりが提唱されていることは傾注に値するところですが、実現には大変困難な側面もあるようです。

珠洲市においては、県央への移動手段を短時間で確保したいことや、地域間での生活道路を確保し産業・観光の安全安心な道路環境を整備することに尽きると思われます。珠洲・金沢間は、防災上確保しなければならない道路であり、また生命の安全を守るため緊急輸送の手段を確保することでも重要であります。域内の道路においては、少子高齢化社会に伴い、地域住民が安心して暮らせるための居住空間・地球環境に対応した道路づくりが求められます。今後、修繕や更新の需要拡大にも波及していきますが、地方の負担は益々増大する一方であります。

市では、伝統文化や風光明媚な景観等たくさんの観光資源に恵まれております。知らない土地へ訪れた時には、どうしても観光案内や道路標識の看板に頼るところがあります。折角、立派な道路や観光スポットがあっても、利用されなければ意味がありません。官民が一体となった公共サインの整備を行い、その地方の「もてなしの心」が表現されるような標識にすることが必要です。地名だけでなく地域の景観に配慮したデザインや電子機能を備えた多機能なものなど、まだまだ工夫次第で、観光地としての価値も高めることに繋がると考えられます。

単に人々が行き交うための道路ではなく、住民本位の道路づくりを今後の道路行政に大いに期待するところであります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価など）

石川県珠洲市

○ 重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価	○ その他
将来を見据えた公共交通の見直しと道路整備	鉄道の廃止後、市外アクセス代替バスと並行し市内路線の活用策の見直し（商店街割引券の提携による予約制バス運行）	病院、市街地への効率的な運行計画を充実させ利用頻度の高い公共交通	過疎化、高齢化による公共交通の存続（利用者は減少するが高齢者には欠かせない）
奥能登絶景海道の登録	・道路の清掃美化運動（花壇、草刈、イベント等） ・周遊道路の拡幅整備 ・絶景ポイントの駐車場、展望台の整備	観光バスが安全に通行できる道路環境の整備	交流人口の拡大
都市ルネッサンス街路整備・まちづくり交付金事業	市街地の道路整備と街路環境の整備	市街地への人口移動・定住促進と定住計画の拡充	まちづくりと住宅環境の整備